

～16年を振り返って～

平成13年8月、椎名代表の面接を受けユーアイやちよに入会。ドライバーとして、はやいもので16年が経ちました。利用者様訪問に際しては、心身とも健全でなければと思ひ心掛けた規則正しい生活リズムが、身体を活性化させました。

送迎開始の頃は八千代市の道路不案内で、ゼンリン住宅地図を求め、利用者宅の下見をし、訪問時間5分前には訪問できるように準備します。

ヘルパー研修の中で、「介護の基本は利用者様が先生！教えて

頂く気持ちが大切！介護している時間は利用者の時間！言うことを常に心がけるように！」と教えられました。

先日、10年前の実施記録を利用者さんが保管されていました。当時の医師、作業療法士の様子が解り、大変助かった。今でも時々参考にしておられると言う。感動しました。

いつも訪問時は「顔色・雰囲気に変化はないか」注意し、送迎時は、心が和むよう、寄り添うことを心掛けています。これからも、知識と技術と誠意をもって対応しなければと思っています。

移送サービス（以前はヘルパーも） 菊池



～昭和から平成を生きて～

私は昭和18年1月に生まれ、物不足の戦後時代を過ごしながら高等学校を卒業し、昭和37年社会の一員になりました。一生懸命働き家庭を持ち2人の子を育て豊かな生活を望みつつ、老後は贅沢をしなければ年金支給でまかなえるものと考えておりました。

昭和40年代から、20年間は経済成長により、多くの国民は豊かさに酔いしれ、昭和の終焉はバブル経済の終わりでもありました。不毛な時代が長く続き、今の日本は少子高齢、人口減少、格

差社会などで多くの国民は生活の不安を抱えております。特に救いの手が必要な厳しい毎日を過ごしている高齢者が居ます。

本来は政治が解決するところですが、全てを行政に頼ることは無理であり、このような背景から「NPO法人ユーアイやちよ」のような福祉団体が必要とされていおります。今後高齢社会が進行する中で、「ユーアイやちよ」が果たす役割は大きいと考えます。皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

賛助会員 松井 秀雄

～米寿の呟き～

少子高齢化は益々進んでいます。これはマイナス面だけではありません。

以前より元気な高齢者が増えたということです。その元気な高齢者の持っている少しづつの時間を寄せ集めて介護を必要としている人たちの生活を支えているのが、「ユーアイやちよ」です。素晴らしいことです。会を運営している方々、活動を直接支えている方々に心からの敬意と感謝の思いを送ります。

さて私事になります。私は今年二月に米寿を迎えました。昭和の激動の時代を生きて参りました。八十八歳の毎日は、肉体、心両面の変化発見の日々です。肉体の衰えから生じる変化は日々現れます。また、心も弱くなります。弱った体と心は一体となって全ての意欲を奪っていきます。しかし、得る事も沢山あります。感謝、寛容許容量が増し、足るを知り、身の程を知る。多くを求めない等！米寿の呟きを聞いて頂き有難うございました。

賛助会員 蕨 恭子



～その人らしさを支える・つながる・繋げる人に～

ユーアイやちよ発足当時の25年前の社会は、他人の世話を受けるのは抵抗があり、体が不自由になっても他人様に、お世話になるのは申し訳ないとか、恥ずかしさなどを抱いていた人が多かった事でしょう。これらのニーズを素早く察知されて、身近なボランティア活動から始まり、いろいろの援助活動に発展し、現在大きく躍進されている経緯に心から敬意を表します。

身体が不自由でも、病気に罹患していても自分らしく地域の中で暮らしたい。この思いを大切に地域の中で生活ができるように、その人らしさを支える意欲と行動に大きな拍手を送ります。

このようなユーアイやちよの熱い思いと共に10年前に傾聴ボランティア講座の後、ボランティアグループ「語らいパートナーの会」が誕生しました。

私たちのメンバーは現在42名、お互いに助け合い、啓蒙しあいながら、受容・共感・関心を土台にして、その人らしさを尊重した傾聴活動に望んでおります。

良いメンバーに恵まれてこの10年間、無理せず、ゆっくりと細く長くを心に刻みながら現在に至っていることに感謝しています。

傾聴ボランティア「語らいパートナーの会」上原 君江

～元気の源～

25年前、ボランティア精神旺盛な中年女性たちで始まった「ユーアイやちよ」は、家庭的な雰囲気の中で和気あいあいと活動していました。今では介護保険制度のルールがあり、それにしぼられて活動するせいか、なんとなくギスギスしてきたような気がします。昔が懐かしい。それでも、利用者さんとの心のつながりは、昔も今も変わりません。ケアの合間に生まれ育った東京下町気質などの興味深い話が出て、利用者さんのご家族ともども大笑

いすることがあります。また、80歳台や90歳台の利用者さんから、70年以上前の話や、目からウロコの話などを聞かせていただいて、心の底からうれしく思い感激することも枚挙にいとまがないほどです。利用者さんとのつながりは、私にとって元気の源です。25年もの長い間、この活動を継続できたことに感慨を覚えると同時に、これからも身体の許す限り、続けていきたいと思っています。

桃井 佳子

